TOSHIBA
Leading Innovation >>>

家電の数だけ物語は生まれる。

小さな掃除機担当大臣

母子家庭で育った私は
朝から夜まで働いている母を見て、
小さいなりに何かお手伝いをしなきゃ、
私がお母さんを支えなきゃなんて思っていました。
そこで私にできることは、
掃除機をかけることくらいでした。
部屋も少なかったので、手軽にできると思ったのか、
母は私を掃除担当大臣
に任命してくれました。
少しでも、母の役に立てると思って
本当に嬉しかったです。
小学生だったし、掃除機をかけても、
ゴミが残っていたこともあったでしょう。
それでも、母はいつも
"今日もピカピカ！
朝から気分いいわ。
今日も一日頑張れそうだよ"
と言ってくれていたのを
覚えています。
今年が歳を迎える母。
古い掃除機をまだ使っているので、
還暦お祝いに軽くて使いやすい
掃除機をプレゼントしてあげようかな
と思っています。

掃除機部門　優秀賞　岐阜県　O.Y さん（当時 [illegible] 歳）の作品
審査員　東芝家電商品チーム
子どもの頃、お手伝いもしっかり役割をこなすお母さんが誇らしかったエピソードを通じて、家事に対する母子の思いが伝わってきました。それでも、当時のお母さんが掃除機をプレゼントされる日が来たとき、お母さんは[illegible]歳。[illegible]

からっぽの冷蔵庫

もう何十年も前のこと。
ある日は我が家に初めて冷蔵庫というものが
やってくるスペシャルな日だった。
私はまだ幼くて記憶がないけれど、
電気屋さんが到着するものを家族と共に
たいそう楽しみにしていたらしい。
やがて、待ちに待ったその時はやってきた。
白いあざやかな四角い箱が、
四合の古い家屋に運び込まれ、家中は大興奮。
設置が終わり電気屋さんが帰ると、
父は得意気に私に言った。
"どうだ、冷蔵庫だぞ。すごいだろ"
娘の表情を期待した父に、私は素直に感想でしたらしい。
"こんなの冷蔵庫じゃない。"
"えっ、冷蔵庫だよ。"
その後、父母は私が怒っている理由をやっと理解した。
私が思っていた冷蔵庫はハムやジュースが美味しそうな
食品がぎっしりと詰まっている物だった。
開けた時にはっと色とりどりの夢のような光景が
溢れ出してくるはずだった。
だから、扉を開けてもからっぽな庫内を見た時に
どんなに失望したことか。
この一件は、私が大きくなってからも
父からよく聞かされた。
"あの時はまいったよ。"
いつも、笑いながら昔を懐かしんでいた。
その父も亡くなってから、ずいぶん経つ。
今でも私は冷蔵庫を開けた時、愛されたあの時代を
ふっと思い出すことがある。

冷蔵庫部門　優秀賞　東京都　S.Sさん（当時 [illegible] 歳）の作品
審査員　小野元泰（商品本部　商品戦略グループ　グループ長）
からっぽの冷蔵庫の話。[illegible]

洗濯は洗濯機がするんやけん

毎日の洗濯は、専業主婦であった母の仕事だった。
毎朝、ガランゴトンと一回洗濯機を回した後、
職場へ向かう父の作業着を洗うために、
もう二度母は、洗濯機を回した。
最後に二回分の洗濯物をすすぎ母の姿を見て、
"大変よね"
と、父にきくと、父は決まって
"洗濯は洗濯機がするんやけん"
と、そっけない答えをしていた。
そんな母が、ある朝に入院した。
私がお盆に帰ってしまったことで、
毎日の洗濯は、まぬけな父の仕事となった。
初めは大丈夫かと心配したが、
タオル数枚を干し方にもこだわりがあるようで、
バスタオルの風合たりの仕上がりは、
自分なりに工夫しながらやっていたようだ。
私が実家に行った時も、朝早くから、
父はガランゴトンと洗濯機を回していた。
父は五時起きなので、家族が揃う朝食前に、
干し終えることができるという点でも、
もしかしたら洗濯係に一番適任なのかもしれない。
洗濯物を干し終えて、コーヒーを飲む父に
"今度はお父さんが大変ね"
と、話しかけると、少し照れくさそうに父がきた。
"洗濯は、洗濯機がするんやけん"
その日も、よく晴れた空に、
父の干した洗濯物が少し誇らしげに、
風になびいていた。

洗濯機部門　優秀賞　東京都　O.Y さん（当時 [illegible] 歳）の作品
審査員　小野元泰（商品本部　商品戦略グループ　グループ長）
毎朝、ガランゴトンと洗濯機を回す母の姿を見て、[illegible]

冷蔵冷凍庫
ベジータ

ドラム式洗濯乾燥機
ザブーン

サイクロンクリーナー
トルネオ

ママゴコロ家電

家電を通じて、
家事する人を楽にしたい。
家族の幸せをつくりたい。
東芝のその思いはいまも変わらず、
ママゴコロ家電へと
受け継がれています。

いままでも、
いつまでも、
あなたのそばで。
東芝

第一回「家電と我が家の物語コンテスト」作品発表。

東芝が日本初となる
冷蔵庫、洗濯機、掃除機を
つくってから80年。
私たちは80年分の感謝を込めて
「家電と我が家の物語コンテスト」
を実施いたしました。
すると私たちの想像以上に
多くの方々から素敵な物語を
お寄せいただきました。
その話はどれもやさしく、
愛にあふれていて、
読んでいる私たちの心を
あたたかくするものばかりでした。
これはもっと多くの人に
読んでいただきたい。
あたたかい気持ちを共有したい。
そう思った私たちは
優秀作品を新聞紙上に
掲載することにいたしました。
家族をつなぐ
家族の一員のような家電の物語。
どうぞお楽しみください。
東芝は今後もコンテストを続け、
みなさまの大切な思い出を活かした
家族の一員のように大事にされる
「ママゴコロ家電」をつくっていきます。

第一回「家電と我が家の物語コンテスト」応募総数[illegible]
詳細は8月頃までに発表いたします。

eco スタイル　東芝グループは、持続可能な地球の未来に貢献します。